

## 小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録

日時：令和3年11月20日 午前9時00分～午前10時55分

会場：小金井市立さくら保育園

対象：さくら保育園の保護者

参加者数：9人

○三浦保育課長 定刻でございますので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会にご参集いただきましてありがとうございます。

本日、司会務めさせていただきます三浦と申します。よろしくお願いいたします。

まず、はじめに、開会に当たりまして、3点ほどご案内をさせていただきます。

1点目、携帯電話、スマートフォン等につきましては、電源をお切りいただくか、マナーモードにするなど、音が鳴らない状態にさせていただきますようお願いいたします。

なお、トイレは、出て右手にございますので、お使いになる方はご自由にお使いください。

2点目でございます。本説明会につきましては、市のほうで録音させていただきます。録音した音声を基に後日、議事録を作成いたしまして、個人の方が特定できないように配慮した上で、市のホームページにて公開いたしますので、あらかじめご承知おきください。

なお、個人のプライバシーに配慮するため、参加者の方による動画、写真の撮影、音声の録音は禁止とさせていただきます。

3点目でございます。場内は換気に努めておりますけれども、説明会参加中はマスクの着用をお願いいたします。

なお、ご存じとは思いますが、保育園の敷地内、禁煙でございますので、こちらもよろしくお願いいたします。

あと、最後になりますけれども、本日の説明会、赤ちゃんをお連れの方もいらっしゃると思いますので、一応2時間をめどにと考えてございます。11時終了予定ということで、あらかじめご了承をお願いいたします。

ご案内は以上でございます。

本日の説明会、前回の説明会と同様の趣旨で開催させていただくものでございます。資料につきましては、前回と同じものをあらかじめお配りしてございますので、ご要りの方はお持ち帰りください。

なお、クリップボードにつきましては、終了時に私どものほうで回収をさせていただきますので、ご退室の際に、椅子の上にそのまま置いてご退室いただければと思います。

ご案内は以上でございます。

それでは、続きまして、本日の出席者をご紹介します。

正面、小金井市長の西岡真一郎でございます。

- 西岡市長 おはようございます。よろしく願い申し上げます。
- 三浦保育課長 市長右側でございます、小金井市教育委員会、教育長、大熊雅士でございます。
- 大熊教育長 よろしく願いします。
- 三浦保育課長 正面向かいまして左手でございます。子ども家庭部長の大澤でございます。
- 大澤子ども家庭部長 大澤でございます。よろしく願いいたします。
- 三浦保育課長 正面右手、保育政策担当課長の平岡でございます。
- 平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしく願いいたします。
- 三浦保育課長 それでは、説明会に先立ちまして、小金井市長の西岡よりご挨拶を申し上げます。

市長、お願いいたします。

- 西岡市長 皆様、おはようございます。市長の西岡でございます。

本日は、大変お忙しい中、また、土曜日の午前中という時間帯にもかかわりませず、新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）に係る説明会にご参加、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また、皆様方におかれましては、日々ご案内の保育行政や、また長きにわたる新型コロナウイルス感染拡大防止への様々な取組へのご理解とご協力いただいておりますこと、重ねて御礼と感謝を申し上げます。皆様、ありがとうございます。

この後、私どもは、発言者は着座のまま発言をさせていただきますので、どうかお許しいただきたいと思っております。よろしく願いします。

保護者の説明会に関しましては、これまでに保護者向け説明会を前回6回開催させていただきました。あわせて、市民向け説明会を2回開催いたしまして、8回開催をさせていただきました。その中で、前回6回のご説明の中におきましても、多くのご意見、

ご要望を伺ったところでございます。その際、時間的制約のある中、重ねての開催をご要望されるご意見も多く、私といたしましても、引き続き開催させていただくことといたしました。そのため、本日の説明会は、初めて参加された方もいらっしゃるかと存じますが、この後、私のほうで若干お時間をいただきまして、その後、再度質疑応答、またご意見、ご要望を伺うことに重きを置く会とさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

前回の説明会の中で、特に多くのご質問、ご意見などいただいたものの中から、3点に絞りまして、冒頭、私の考え方についてお伝えさせていただきます。

1点目は、段階的縮小から廃園する理由についてでございます。

この間、段階的縮小の後に廃園するということを選択した理由は、市財政のみではないかとのご意見を多数いただきました。小金井市が施策や事業を行うに当たりましては、財政の問題は無視できないものであります。これを念頭に置かずに事業を継続することはできません。そのため、今回の公立保育園の件に関しましても、財政面が理由に含まれることは事実でございます。

私といたしましても、市役所全体としての職員数の問題、また、人件費の問題など、自治体経営という視点におきまして、保育園5園を直営で維持し続けることは難しいという考え方を、市長就任以来、持ってまいりました。

その前提の中で、今回の方針案を作成するに至りました最大の理由は、公立保育園の運営者といたしまして、お子様の安全を第一に考えた結果であり、今後、公立保育園は整備しないという方針の下、老朽化が進む施設に対して、今から対応を定めるべきと判断したからでございます。

そのほかにも、今後、人口減少が見込まれる中で、待機児童も減少傾向にあることや、公立保育園自体、維持していく上での人材確保という大きな課題もあり、市全体におきましては、さらなる保育サービスの拡充や質の維持向上のためにさらなる予算と人材が必要であることなど、様々な状況、背景を勘案し、策定させていただいたものでございます。

また、廃園の理由に関連いたしまして、今回の方針案では、小金井市の保育がよくなるが見えてこないというご意見をいただいております。跡地利用の件やサービス拡充の内容についての言及もございましたが、私といたしましては、別の施設を建てる代わりに公立保育園3園を廃園するというものではございません。同じ保育行政の中で、

これまで対応できていなかったことに対しまして、対応・充実を図ってまいりたいと考えております。

この間、ご紹介しております、今年3月に策定いたしました、すこやか保育ビジョンは、保育の質に重きを置いたものとなっておりますが、これまでの課題となっていた多様なニーズについても記載しております。

以前から課題となっていた特別な配慮が必要なお子様への対応、幼稚園、保育園と小学校との連携、幼保小連携など、保育分野だけでも進めなければならない施策は様々ございます。今回取り組んでいく内容について、詳しくは方針案の9ページ以降に記載しておりますので、ぜひご覧いただければと存じます。

2点目は、廃園のお子様への影響や対応についてでございます。

この点も大変重要な課題だというふうに私は十分認識しております。私といたしましても、園児が少なくなることに対するお子様への影響がないとは考えておりません。特に異年齢保育が実施できなくなっていくことも事実として認識しています。お子様の日々のケア、また、ご家庭の支援につきましては、現場の保育士に担っていただくことに勝るものはございませんが、現場任せというわけではなく、少しでも多くの取組ができるよう検討しているところでございます。そういうような中で、園児が少なくなっても、お子様に対して何ができるかについては、現在、現場とも相談しながら、保育課において検討を続けております。

これまでの説明会の中でも、その取組の一つとして、例えば他園、他の保育園との交流、小学校との交流、地域との交流などをお伝えしてまいりました。今日は大熊教育長にも出席をしていただいております。

中でも、小学校との交流につきましては、保育園から小学校への接続という点で、未来の子どもたちのために今すべきことは何かという視点からも検討を進めています。この幼保小連携について、市長部局と教育委員会という垣根を越えまして、関係課で集まって、今後進めていくことを確認させていただきました。

これからこの取組を進めていく中で、さくら保育園及びくりのみ保育園での取組にもしっかりと力を入れていきたいと考えています。

3点目は、今後どのような形で合意形成を取っていくのか、スケジュールをどのように考えているのかについてであります。

私といたしましては、公立保育園3園を段階的に縮小していくという考え方をお示し

し、それを方針案という形にまとめ、現在、保護者の皆様、また、今後、市民の皆様にも引き続きご説明をしているというのが現在の段階でございます。

また、スケジュールという点では、公立保育園の役割や廃園に関し、有識者を交えた会議などで議論すべきというご意見、ご要望も多くいただきました。公立保育園の運営方法の見直しに関しましては、平成9年から長い間にわたりまして様々な場面での議論や検討が行われてまいりましたが、公立保育園の役割につきましては、市の役割という形で整理させていただいたほか、施設老朽化などの課題も顕在化しており、私としましては、さらに検討を続けるのではなく、市として判断をさせていただく時期に来ていると考えております。

新たな会議体の設置などにつきましては、現在、市議会のほうで議員の方から会議を設置するための条例案が提出されております。そのことにつきましては、議会のほうでご判断いただくこととなりますが、現時点で私の考えといたしましては、公立保育園の役割や廃園について議論する会議体などを設置するという考え方はございません。

そして、この先、どうしていくかについてであります。前回8回の説明会でのご意見、ご要望、また、今回、市民説明会を含め、さらにあと8回の説明会を開催し、その中でのご意見、ご要望なども踏まえた上で、次のステップに移るかどうかは、私が総合的に判断させていただきたいと考えております。

したがって、現時点で、いつ、何を、ということは申し上げられる段階ではございませんが、以前にご提案がございました、保護者の皆様や父母会役員の皆様の賛否を問うような形ではなく、様々なご意見を踏まえて、私のほうで判断させていただくものと考えております。

この後は、時間のある限り、皆様方からの様々なお声をお聞かせいただき、私どもとしても現時点での考え方をしっかりと伝えさせていただき、しっかりと対話を行わせていただきたいと思います。

それでは、皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○三浦保育課長 それでは、質疑応答のほうに進んでまいります。

前回同様、なるべく多くの方にご発言をいただきたいと思いますと考えてございますので、1巡目の方を優先させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

なお、ご発言に際しましては、着座のままで結構でございますし、また、お名前につきましても発言いただかなくても結構でございます。係の者がマイクをお持ちいたしま

すので、着座にてそのままお待ちいただければと思います。

では、発言される方は挙手をお願いいたします。

どうぞ、そのまま結構です。

○参加者

3件質問させていただきます。

頂いた資料の7ページに、わかたけ保育園の、この廃園の時期について記載があるんですが、その中で、さくら保育園とくりのみ保育園の段階的縮小の状況等を踏まえて判断するということが書いています。

ここは、わかたけの話になるんですけども、さくら保育園が段階的縮小していく中で、どういった状況を見ていくのかというところをちょっと具体的に教えてください。

その状況次第では、さくら保育園を含めた段階的縮小も一時的に中断、中止することもあり得るのかというところも教えていただければと思います。

あと、9ページですか、ページはあれなんですけども、今後、段階的縮小していくに当たって、異年齢保育ができなくなってくるという話がありました。その中で、小学校との連携を含めた対応を考えていくということのご案内があったんですけども、それは多分、異年齢保育の補完、補うような形での対応ということだと思うんですけど、その一方で、廃園に伴う児童のストレスとか心身ケアについて、今どういった検討をされているかというところを教えてください。

2点目と関連しますが、そのストレスケアも含めて、職員の方の配置、現状の方針では保育に支障がないように配置するという記載がありますが、廃園というのは、恐らく小金井市の公立保育園の中でも前例がないものかと思います。そういったところを含めて、保育に支障がないように配置するだけではなく、必要十分な職員の配置を検討いただける余地はあるのか、教えていただければと思います。

以上です。

○三浦保育課長 お願いいたします。

○西岡市長 それでは、冒頭、私のほうから回答し、以後、担当から、その質問内容に応じてご答弁させていただきます。

ご質問、ご意見をいただきましてありがとうございました。

方針案の中では、段階的縮小、令和5年から0歳児の募集を停止いたしまして、それから年を追うごとに0、1、2、3、4、5、そして7年後の令和10年3月31日をもって、さくら保育園とくりのみ保育園を廃園するという方針案となっております。

その中で、わかたけ保育園につきましても、段階的縮小から廃園する対象園として、この項目の中では、わかたけ保育園も位置づけています。その時期などについては、詳細につきましても、まだ今後の検討ということになりますけれども、基本的には、くりのみ保育園、さくら保育園の段階的縮小という状況の中で、いろいろな状況があると思いますので、今、その段階的縮小を行っていく中で対応していくべき様々な課題などについて、わかたけ保育園の中にもしっかりと取り入れていきたいというのが基本的な考えになります。

そして、わかたけ保育園の段階的縮小、廃園する時期というものは、もちろんこれは令和10年3月31日以降になります。その後ということになりますが、では、いつの段階から、わかたけ保育園の0歳児の募集の停止など、段階的縮小へ移行するのかという、そのスタートの時期については、まだ明確にはなっておりません。しかし、基本的には令和10年3月31日をもって、この2園の段階的縮小から終了いたしますので、その後の対応になるかというふうに考えてはおります。

また、くりのみ、さくら保育園が段階的縮小を行っている中で、その取組の中で中断するということがありますかということですが、現時点では、これは方針案ですけども、市議会で条例等が可決をされて、そして具体的にこの段階的縮小が始まった中で、今日の現時点では、その中断するということは今のところは考えておりませんが、もちろん緊急的なことや突発的なことが、何か想定できないような事態など、それは何が起きるか分からないので、100%ということはもちろん申し上げることはできませんけれども、市としては、この段階的縮小は、計画的に、支障がないように進めていきたいということが、基本的な考え方だと思っております。

何かの突発事項といいたいでしょうか、その園の運営そのものに関わるような、非常に大きな事案ですね。そういったものは、もちろん何らかのことを考えなければいけないような事態も、それは100%何もありませんと言うことはもちろんできないと思いますけれども、園の運営そのものに大きな支障を来す、こういうことがあれば、それはその時点で当然考えさせていただくことになろうかと思えます。

異年齢保育ができなくなってしまうということは、冒頭、また、前回の説明会でも申し上げたように、事実であります。したがって、令和9年4月1日から令和10年3月31日までは5歳児クラスのみとなります。なので、最後、令和5年4月1日に入園された0歳児の方が、令和9年4月1日から1学年1クラスということになります。

私たちは、その現状を鑑みて、さくら保育園とくりのみ保育園の在園児の皆様方には、特別な対応をしなければいけないと考えています。

その中で、冒頭申し上げましたように、いろんなことを取り組んでいきたいと思っておりますが、今は、ほかの保育園との交流や小学校との交流、教育委員会と連携、地域の皆様方との交流、今もいろいろなことが行われているとは思いますが、子どもたちの成長のために必要なこと、これをしっかり取り組ませていただきたいと強く認識しています。

その中で、ストレスケアであったり、心理的なサポートについてどのようなことを考えていますかということでありましたので、後ほど担当からもご答弁いたしますが、やはり在園児の方々への対応を考えると大切なことは、保護者の皆様、現場の保育士の皆様、小金井市の保育課、この関係者の皆様方がしっかり連携をして、そして、常に子どもたちに寄り添う。今、想定していなくても、実際にこの段階的縮小が始まった中で新たに取り組むべき課題、新たに取り組むべき施策が必要となれば、それはしっかりと取り組んでいく必要があると思っております。その中で、現場にいる保育士の方々の役割が大きいとは思っております。

また、最終年度の令和10年3月31日をもって廃園するまで、給食調理員や看護師など、今、配置している職員体制は現状もちろん最後まで継続をさせていただきます。なので、公立保育園に勤務しているスタッフの皆様、そして小金井市の保育課の皆様とともに、心理的なストレスということであれば、小金井市のきらりというところで、児童発達支援センターや、それから保育園の、そこではいろいろな認可保育園も含めて巡回相談などもして、いろいろな対応を、これはもうスタートさせていただいているところでありますが、市の中にある関連する組織とはしっかり連携をして、必要な取組については対応していきたいというふうに考えております。

また、後ほど大熊教育長からも何か補足がありましたら、お願いをいたします。

卒園児の皆さんが、さくら保育園であれば本町小や二小に通う方も多いかと思えます。もちろんそれ以外の学校もあるかと思いますが、特に本町小、二小中心に、卒園児との交流であったり、何というんですかね、断片的なその場限りみたいなものでは意味がないんだという、そういうご指摘も、この間、説明会でいただいているんですね。なので、常時というわけにはもちろんいかないのですが、しかし、その中であっても、子どもたちの成長のために必要な取組ということは、これは本当に大切なことだと思っているので、

しっかり取り組んでまいりたいと考えます。

職員の配置についてです。

分かりやすく申し上げれば、必要な職員をしっかり配置させていただきたいと思っています。その職員の充実した体制というご要望でございましたけれども、私としても充実した体制を構築させていただきたいと考えています。

冒頭、私からは以上です。

○大熊教育長 教育委員会の方針を少しお話しさせていただきたいと思います。

幼保小の連携は、これまで重要だというふうに言われていました。しかしながら、教育委員会が音頭を取ってこうなさいということは、今までしていなかったんです。各学校の教育課程内において、教育課程の工夫として、様々な形で保育園との連携を行ってきたということがありました。

各学校の校長に話を聞いたところ、私どものほうの報告事項には上がっていなかったんですけれども、保育園の子どもたちが学校に来て授業の様子を見たり、保育園との交流を行っていたということは聞きました。

教育課程というのは、ちょっと説明が難しいんですけど、教育課程の編成権というのは学校にあって、学校がそれぞれ工夫することに関して教育委員会が何か言うということは、実はあまりないことなんです、実は。だから、様々行われていたんだけど、教育委員会は知らなかったという。

今後なんですけれども、今回のこのことで市長からも特段の配慮をしてほしいということで、教育委員会としても考えるということになりました。今回、市立の小学校として市が抱える課題に対してしっかりとした対応をすることが、各学校において必要なことであるという言い方をして、各小学校の先生方、特に今は本町小学校と東小学校の校長に連絡をいたしまして、今後、幼保小の連携について教育委員会としてしっかり取り組んでいくので、どのようなことができるかというのを計画を立案してほしいという言い方をさせて、今、本町小学校と東小学校の校長が連携をして、何をするかというところを今、模索をしていただいている段階です。

それから、教育委員会といたしましても、実は細かいことが分かっていなかったというこれまでの経緯がありまして、保育課との合同会議を持つことにいたしまして、今、2回、会議を開いて、どのようなことができるかということを、今、プロジェクトチームみたいなのが出来上がって、今、どういうことができるかというのを今考えていると

ころです。

これは、保育園だけの問題ではなくて、小1ギャップといいまして、子どもたちが小学校1年生に上がったときに様々なストレスを抱えるというのは実はありまして、そのことについてしっかりとした取組をやっていく必要があるという学校側の、小学校側の問題点もちゃんとありまして、そのことについて検討を進めていくということで、その2校、もしかしたら二小も入るかもしれないんですけど、二小に声をちょっとかけなかったのは、先日、研究発表がありまして、今、学校はそれで一生懸命やっていたので、そこで新しい課題を言うのはちょっと控えていて、今、本町と東なんですけれども。そこで行われていた幼保小連携については、各学校に広めていきたいと、そんなふうに考えているところです。

以上です。

○平岡保育政策担当課長 すみません、ちょっとこちらの回答が長めになってしまって申し訳ないんですけれども、ちょっと細かいところでいただいた3点について、私のほうからもお答えをさせていただきます。

2園の段階的縮小の状況を見ての状況は、具体的にどの辺りを見るのかというお話が1点目だったのかなと思うんですけれども、私たちとしても、子どもさんが減っていったときの園の状況ですとか、そういう部分についてはきちんと対応していかなければいけないというふうに思っていますので、そういった進めていく中での様々な状況というものも踏まえて、わかたけをいつやるのかというものの参考にさせていただきたいというふうに思っていますので、ちょっと言い方が悪いんですけれども、2園をテストケースにしようというふうに思っているわけではなくて、実際にやっていった中で、私たちは丁寧にやっていきたいと思っても、いろんなことが起きる可能性があると思っていますので、その状況も無視するのではなくて、その辺りも踏まえて、次やるのであれば考えなければいけないという意味で入れさせていただいているというのが、状況を見てということになります。

ですので、どちらかという社会情勢ですとか、市内の全体の保育の量ですとか、そういう部分の方が、どちらかという、次いつからというところの検討するほうのウエートは大きいかなと思っています。

それから、お子様が少なくなっていったときについてなんですけれども、今、市長、教育長からもお話しさせていただいたとおり、やはりお子様のケアについては、現時点

では私たちと、そういうふうに現場とは相談をしていますけれども、冒頭、市長が申し上げたとおり、現場の保育士さんにまず支えていただくというのが、それに勝るものはないという考え方を一つ持っています。

それともう一つは、別の、今までとは違う新たな取組、行事になるのか、先ほど言った学校との交流とか様々な取組を、お子さんが少なくなったときに増やしていったりすることによって、今までにないような体験とか経験、そういうことを逆にさせていただくような、先ほど市長が言った特別な取組、そういうものを増やしていきたいというふうに思っています。

今、こちらのほうでお伝えできる考え方としてはそこまでで、ただ、それで足りているとは思っていませんので、ほかにもできることがあればという姿勢で引き続き考えていきたいというふうに思っております。

最後の職員配置ですけれども、基本的には、保育士さん以外の職員の人数は、最後まで変える考え方は持っていないです。保育士さんについては、それぞれの年齢のお子さん何人に対して何人配置するという基準が決まっていますが、その基準どおりに丸々人数を減らしてしまうのではなくて、それよりも若干人数を残すような形で減らしていったり、余力と言うつもりはないんですけれども、その分、対応ができるような形にしていきたいというふうに思っています。今、具体的に何人、何人というのはちょっとお伝えできないんですけれども、ぎりぎり毎年毎年というような形の考え方は持っておりませんので、そのところはお伝えできるかなと思います。

私からは、以上です。

○三浦保育課長 何かほかにございますか。

では、次の方というか、ご発言がある方がいらっしゃれば、挙手をお願いいたします。

○参加者 今日説明会を設けていただきありがとうございます。

ちょっと私のほうも、先ほどのお話とか、ごめんなさい、今こちらで先般の説明会の議事録とかを見ながら、ちょっと今考えているところなんですけれども。先ほどからちょっと話の出ている異年齢保育の心理的ストレスとか、懸念とかを多く述べている保護者の方が多い中で、今、検討していただいている内容というのを伺ったところなんですけど、やっぱりちょっと走りながら考えるというのではなくて、ここって、しっかり結論出してから、この次の段階の話なのかなという気がするんですね。このまま行ったら、募集停止だとか、もしくは条例案が通るのかもしれないんですけど、通った後に、じゃ

あこの問題を考えます例えばというのではなくて、どうすれば心理的ストレスや懸念とか、そういうのが、要は今のお話だと検討中というような段階のまま行っちゃうんじゃないかというのがみんなの不安なんだと思うんで、そこをちょっと多分解決する方向性を示していただいて。

それがまた、行政としての考え方と保育のプロとしての考え方、専門家の人の意見を交えるのかまでは、ごめんなさい、私も分からないんですけども、そこがちょっと出ないとみんな不安を抱えているので、ちょっとまだ市の考えていただいている内容が、こちら側に届かないのかなという気がしています。

もう一つは、ここの例えばさくら保育園が廃園になったとか、何かわかたけ保育園も廃園になると、前原地区では保育園の数が不足しているだとか、ちょっとそんな話も結構見えてきているんですけども、今、生産緑地問題というのが言われていて、2022年になると生産緑地が一斉に売却されて、やっぱり住宅が増えていくんじゃないかとか、マンションが増えていくんじゃないかというふうに言われていて、小金井ってすごく、新宿まで30分とか通いやすいところなんで、東京駅までだったら50分以内で着くところなんで、やっぱり生産緑地の跡地になりそうなところに、早速なんですけど、旗が立ち出しているんですよ、まちを歩いていると分かるんですけど、結構、緑地のところで、もう計画があるんだなということぐらいは素人でも分かるような、建築看板が出始めたりとか、ちょっとごめんなさい、私の勘違いなのかもしれないんですけど。やっぱり住宅が増えているというのが見てとれるという中で、保育園の配置のバランスというのはどのようにお考えなのかなというのをちょっと伺いたいと思っています。

これから新規参入する保育園に対しては、例えば市のほうで場所を誘導することができるのか、できないのかとか、極端な話、隣に住んでいる人は、さくら保育園が近くてすごく便利なんですけど、なくなってしまったら、今度、毎日、駅前まで連れていかなきゃいけないとか、ひよっとするともう東小金井のほうまで連れていかなきゃいけないとか、ちょっとそういったところも出てくるかもしれないんですよ。

だから、こちら辺に、0歳児から5歳児を持つ保護者が住んでいるところに、やっぱり保育園って立地していると市民としては、それが私立だろうが公立保育園だろうが使いやすいと思っているので、ちょっとその辺の配置のバランスというのは、これどのように、くりのみ、わかたけ、さくらを廃園したときのバランスというのはどのようにお考えなのかというのを、ちょっと聞きたいと思っています。

なので、ごめんなさい、最後にもう一回まとめますけど、検討中という状況のまま、ごめんなさい、精神的な、心理的ストレスの軽減とかは検討中というままでのご意見では、ちょっと厳しいのではないかというふうに考えていますということと、園の配置のバランスをどのようにお考えかというのをちょっとお聞かせください。

○大熊教育長 教育委員会として、教育課程を受理する立場に、ちょっと難しい話なんですけど、ここをご理解していただきたいと思うんですけど、教育課程を受理する立場で、学校は教育課程を編成する権利を持っているんですね。

今回、教育委員会として学校に、今度の教育課程は、幼保小の連携を取り入れた形で教育課程を編成してほしいというお願いをしたわけです。そうすると、その計画案がこちらに上がってくると。そこが入っていなかったら、実はもう一回直してほしいということは言えるわけで。学校に何をしてほしいと言うことは難しいんですけども、方針は出しましたので、何らかの形で学校から、その計画案が上がってくるということにはなっているんです。これを何回か繰り返していくことによって、よりよい案になるというふうに私は考えているところです。

先ほども言ったように、教育課程の編成権は学校にありますので、これこれ、これをやってくれという言い方というのは、教育委員会でもできないということなんです。ご理解いただきたいと思います。精いっぱい私としては、市長からの指示もありましたので、特別な対応をしてほしいという依頼は、学校長に直接しております。今のところは、もう少ししたら、教育課程の受付は2月なんです。そこでは説明できると思います。

○西岡市長 ご質問いただきましてありがとうございます。

現在の異年齢保育がなくなってしまうので、その影響をどのように補完していくのか、対応していくのか。それがあまりにも、まだ検討中だというのが心配だということでございます。そのご意見はしっかり受け止めさせていただきたいと思います。

小金井市としても、公立保育園で定員を段階的に縮小するというのは初めての取組です。他市では、東久留米市だとか同様な方法を先行してやったという実例がありまして、うちの職員も東久留米まで行って調査をしてきたりしています。

そういう状況の中で、小金井市として、市として今考えられているものとしては、いわゆる幼保小の連携、小学校との交流、あるいは様々なつながりですね。子どもたちの目線に立って、そして、地域の皆様方との交流。それから公立、民間を含めてというこ

とになりますが、主に公立保育園同士の園児同士の例えば交流でありますとか、これを実は行っていくということは決定、案の中では明記をさせていただいております。

これは、私どもが申し上げているのは、その中で、今まだ考えが及ばないものも、実際に園を運営していく中で必要だというふうに出てくる新たなアイデアというか、新たな取組というのが当然出てくると思うんですね。それはしっかり柔軟に対応していきたいということを申し上げております。

決めたことしかやりませんよということではありませんで、冒頭申し上げましたように、さくら保育園、くりのみ保育園の在園児には、市長としては、特別な対応が必要だと考えています。なので、やるべきこと、やらねばならないことはしっかりやりたいということ。もちろん全て100%固め切って臨んでいるわけではないことは、これはもう率直におわびを申し上げたいと思いますが、現在も、今、例えば市長部局と教育委員会で新しい会議体をつくりました。こういったことも今現在、案の段階です。

そして、保護者の皆様方からいただいたご意見も私たちは取り入れて今後の方針を考えたいと思っておりますので、100%のものでないというお叱りはよく分かるんですけども、むしろ今回の説明会、全部で16回開催をしていくことになっているんですが、そこで出された意見もしっかり取り入れたいという思いがあるんですね。なので、どうかご理解をいただければというふうに思っております。

確かに、現に、この取組を行っていく中で、私たちの参考になるようなご意見は非常にいただいています。それから、こういった点が重要なんだなということは、とてもよい機会になっていると思っておりますよ、心理的なストレスとか、子どもたちの心理的な面もしっかりサポートしてほしいということ、それはご指摘のとおりだと思いますので、どうかご理解いただければと思います。

配置のバランスです。まず、一つ申し上げるとすれば、来年4月に、四つの新しい認可保育園を開設いたします。これをもって来年の4月の段階で定員想定数は4,000人弱ぐらいになるんですね。平成27年、私が市長に就任したときというのは、保育の総定員数は約1,900名だったところ、今度、来年の4月にはもう4,000名近くになります。これは、待機児童の解消という大きな命題に応えなければならないということをも最優先事項の一つとして取り組んできたからです。

しかし、ここで、今年4月に0歳児が51名の空きがあったり、0歳児の出生人口、あるいは募集状況、こういったものをいろいろ総合的に見てまいりますと、待機児童の

解消は1歳児対策が非常に重要なところなんですけれども、一旦ここで、もう新設園の開設は、来年の4月1日の四つの保育園をもって、ここで一度立ち止まらせていただきます。なので、令和5年4月から新たに開設する保育園の予定は今のところございません。そういう状況の中で、バランスについても十分考えながら、新しい保育園を開設してまいりました。

ただ、こちらは、例えば〇〇町に2園つくりたいと考えても、民間保育園の事業者の方が確実にそこに土地を見つけて開設をできるかという、それはなかなか難しく、先ほど農地がかなりありますよという話だったんですが、確かに数はあるかもしれませんが、ピンポイントで局所的に、そこに保育園を開設するというのは、実はいろんな諸条件がありまして、決して簡単ではありません。とても難しいです。認可保育園をつくるには、道路の位置とか、建築基準法上認められているいろんな要件がありまして、実は非常にハードルが高い。そして近隣の住民の方々の理解が必要です。正直申し上げまして、新しい保育園たくさんつくりましたけれども、近隣住民の方々からいろいろな、つまりは反対の意見ですね、開設反対という意見もいただいたことも多々あり、事業所の方々も本当に苦労しながら、たくさんこの間、保育園をつくってきていただいているということは、ご理解いただきたいと思います。特に、武蔵小金井駅の北口には、かなりの保育園が誕生しています。

市民の方々は、いろいろな選択肢があると思います。場所に限らず、その保育園の環境とか、あるいは、もうこのエリアとか、例えば小金井公園の近くとか、武蔵野公園の近くとか、いろんな選択肢があります。一番ニーズが高いのは駅の近く。駅の近くの保育園に子どもを預かってほしいという声が、やっぱりその募集状況から見てもよく読み取れると思っております。

その状況の中でバランスについては、いろんなことを、つまり地域的に偏りがないように、偏在性がないように保育園は開設はしてきましたけれども、それが100%かなったものかというところについては、まだまだ課題があろうかと思っております。特に、貫井南町・前原地域、ご指摘のわかたけ保育園エリアにつきましては、保育園の数で見ますと、駅周辺とか他の地域に比べると若干少ないという傾向はあると思っております。

保育園のバランスにつきましては、さくら、くりのみ、2園の段階的縮小の後に廃園となった場合については、配置的に著しい保育園の不足状況になるかという、そこまでは至らないのではないかと考えています。特に武蔵小金井駅北口はかなりの数があ

ります。それから、東小金井付近も、この間、かなり保育園が誕生しているということは事実です。

しかし、坂下地域ですね、前原、貫井南町地域にあつては、新設園もできましたけれども、その新設状況という、他の地域には若干劣るところがあろうかなというふうに認識をさせていただきます。

冒頭、私からは、以上です。

○平岡保育政策担当課長 すみません、ちょっと長くなってしまって申し訳ないんですが、まず、1点目のご質問です。お子さんのケアというところのお話があったかなと思つていまして。市のほうが今ずっと説明をさせていただいているのは、寂しい思いをしないように、特別な取組というのを今以上にやっていきたい、新しいこともやっていきたいので、全てまだ言えてない、調整できていないものもあれば、もっともっと考えなきゃいけないと思つているという側面が一つあると思つています。

もう一つは、そうは言つても、実際お子さんのストレスとか、そういうことが実際発生したときに、どう軽減していけるのかというほうのお話ももう一つの側面であつたかと思うんですが、それについて今、確実に言えるのは、申し訳ないんですが、まずは現場の保育士、看護師などが対応していくのは、それに勝るものはないというのは、最初に市長のほうで言わせていただいた内容となっています。

それについて、多分、現場の負担とか、様々な面でも保護者の方々のご心配である部分あるかと思つていますが、それを超えて何かというところまでは、こちらとしてまだ答えは出せていないというところはありますが、まずは、保育課も一緒になってですけども、現場としてお子さんのケアを支えていくというところが、まずそこをご説明させていただくしかないのかなというふうに思つております。

それから、2点目の保育園の配置の件は、市長からも大分申し上げたんですけども、私のほうも直接、実は開設のほうを担当しておりまして、毎年、入所案内の後ろのほうに保育園のマップが載っているんですが、毎年、開設していくときにこれを見ながら、先ほど市長から言いましたように、ここで一旦立ち止まると言いましたけれども、全体的なバランスで空白地域が少ないような形で、事業所のほうから話があつたときに、この辺りの土地はあるのかですとか、そういうようなアクションを起こしたケースはあります。

やはり駅前ニーズはとて高いので、駅前の話が来れば別扱いにはなるんですが、そ

ういった視点から、ここ数年で増えてきているのが、北西地域と言っていいかどうか分かりませんが、高架の北側で小金井街道の西側辺りのエリアのところから、このところはずっと保育園の数がさほど多くなかったところがありますので、公立としては小金井保育園とさくら保育園がある場所ですけれども、去年の4月に、市営グラウンドの周辺で2園ほどオープンしました。その一、二年前には、特別支援学校の近くで1園オープンしましたというような形で、全体で見てもちょっとバランスが悪いところは、こちらのほうとしても少し強めに誘致をしてきた思いがあります。

そういった中で、先ほど市長からお話ししたとおり、ちょっとわかたけ周辺がそもそも今までなかなか土地が出てこなかったというところがありまして、こちらのほうとしてもそのところは声が上がってこなかったというのは、事実上事実としてあったというところでは。

以上です。

○三浦保育課長 いかがですか。

○参加者 いいです。

○三浦保育課長 後ろの方。では、どうぞ。

○参加者 ご説明ありがとうございました。3点ほどございまして、1点目なんですが、ちょっと前の2名の方と少しかぶってしまうんですが、人員の配置についてなんですけれども、子ども何名に対して、何歳児だと、先生何人というのが決まっていると。それより多く配置していただけるというところはあるんですが、このお話が出てきたのが本当に突発だったので、じゃあ、いざ自分の子どもが3歳児、4歳児になったときに、何人子どもがいて、それに対して何人先生を配置するという例みたいなものが数字で出していただくと非常に想像しやすいので、できれば今後、こういう案を書いていただく際に、文章ではなくて、例えば令和何年何月期に、何歳児何名、何歳児何名のときに、保育士何名で、看護師何名という形で運営しますみたいな案を、できればここに記載をいただければというのが1点目です。

あともう一つ、2点目が、8ページの5番の(4)番に、閉園する際の、何というんですかね、配慮内容みたいなのが記載があると思うんですけど、それが令和5年の4月から、さくらから転園する子がいた場合に、こういう案がありますというところの記載なんですけど、うちが今、既にもう、さくらに通っている上の子がいて、今、今年1歳に上がって、来年1歳クラスに入れたいなと思っている下の子がいるんですが、もうそ

の時点で、できれば0歳、1歳の時点で転園するならしちやいたい親って多分いて、この点数がつく、つかないの案が遅いんですよ。もうこれが出た時点で、じゃあ下の子どもが入るタイミングで同じ園に入りたいから、上の子どもと一緒に転園しようってなったときに、令和5年からってなると、じゃあ今、転園したら優遇されるのか。されなかったら、じゃあマイナスになっちゃう。じゃあどうしよう。下の子どもが3歳になったときにじゃあまた考えるのかってなってしまう親御さんって結構いらっしゃると思いますし、今私も思っているんですけど。もう既に10月の半ばぐらいに来年の4月のやつで締め切られてしまっていて、もうそのとき、それを考えるときも、あれ、でもどうしよう、1歳で入れるのかな、でも転園したほうがいいのかなという考える時間もすごく短かったですね。

なのでもし、今、現時点では、令和5年って記載があるんですけども、早くなるのであれば、その案というのは早くすることが可能なかというのを伺いたいです。

あと、最後なんですけれども、小金井保育園は今回のこの公立保育園の廃園というのには含まれていないと思うんですけども、すみません、前回の中学のほうでやっていただいた説明会にも出席させていただいたんですが、そのときに、小金井保育園に関しては別の施設とくっついているので、今後どうなるかという予定は立っていませんみたいなお話があったと思うんですけど、今、現時点では多分、廃園というお話ではないので、さくらとか、くりのみとかの今、保護者で自分がいて、じゃあ、例えば下の子どもが転園します、小金井保育園に入りました。小金井保育園にいるとき、また下の子どもができました。その時点で小金井保育園、やっぱり老朽化なんで廃園しますという話が出たらすごく困るので、小金井保育園の今後の予算、財政、じゃあどういうふうなスケジュールで策定されていくのかとか、もし、移転される場合って、すごくお金がかかって大変なんですというお話もこの間伺って、それはそうだなと思ったので、その何というんですかね、スケジュールを立てていただければなと思っていて。今、現時点では多分立ってないと思うので、じゃあ例えば、いつまでに小金井保育園の今後のスケジュール感の策定であったりというのをさせていただけるのかというのを伺いたいです。

以上です。

○西岡市長           ご質問やご意見、また、ご提言もいただきましてありがとうございます。

人員配置の具体的な今後の見通し、それから、転園における、転園やその時期的な課題とか、また、今も考える場合にいろいろ課題が出てきているということのご指摘をい

いただき、ありがとうございました。そして、小金井保育園の今後の将来ビジョンについてということです。

職員数の配置や加点などにつきましては、担当のほうからご答弁させていただきますが、小金井保育園とけやき保育園は存続いたします。この点については、別の回でも、未来永劫ですか、いつまでですかというご質問をいただきました。100年後までは私も責任を持てるかどうか分かりませんが、今の小金井市長としては、ずっと存続させたい。これは私の判断です。途中で変わりますということは全く考えていません。小金井保育園とけやき保育園は、小金井市の公立保育園として継続して、そして、小金井市が掲げている保育ビジョン、保育の質のガイドライン、これは公立・民間問わず小金井の保育園の皆さん、みんなで持つ共通の旗印ですよ、みんなで頑張りましょうということをつくったプランがあるんですね。これを実際に実践したり、具現化したり、そういうことをしていく保育園です。

そして、小金井市には、きらりがあつたりもいたします。けやき保育園は、きらりと複合施設になっているんですね。そして、小金井保育園はあそこは上之原会館という集会施設と複合施設になっています。

小金井保育園は、まず公立保育園としては、これからも継続いたします。途中で廃園します、段階的縮小にしますということは一切考えておりません。継続です。したがって、継続に必要な判断は必ず行います。ですから、それが移転なのか、建て替えなのか。ただ、現地再整備というのは難しいですよ。あそこでもし同じものを建てようとする、一旦どこかにプレハブみたいなのを建てて、また更地にして建て戻るといふのは、なかなか大変な作業にはなります。

あるいは、施設的な老朽化的なものはいずれ、建物というのはずうっと、100年、200年、300年使えるわけではありませんから、どこかでもちろん判断しなければいけない。それが移転なのかということについては、まだ現時点では、今、今日の段階では明確に何年何月に建て替えをします、この場所にということとは言えません。残念ながら。ただ、継続はしますので、その施設に必要な課題はしっかり乗り越えていくということが必要だというふうには考えております。

冒頭、私のほうからは以上です。

○平岡保育政策担当課長 人員配置のところですね、お子さんの募集のところの表のように、毎年どうなっていくかというのを組み込んでほしいというご要望だったと思います。それにつき

ましては、ちょっと考えさせていただきたいというふうに思いますが、今、ちょっとざっくりな言い方をさせていただきますと、例えば1歳から5歳までの園になるときに、0歳児の担任の先生というのが担任表が出ていると思うんですけども、そこに書いてある人数を丸々いなくなるということを、人数を取るつもりはないですので、その人数よりは少ない人数が減って、そこで何人か若干人を多めに置かせてもらっているので、それ以降は、その担任の先生の人数以下の形で毎年減っていく。ただ、全体の中でサポートしていただける方が少し確保できれば、さらに多めに残ることはあるという、ちょっと言い方ざっくりなんですけど、そういうような考え方を持っています。

ちょっと不確定要素があったり、こちらもなるべく、何というんですかね、よりいい方向に対応できる形にしたいので、はっきり数を書いたほうがいいのか、若干幅を持たせた書き方をしたほうがいいのかというところも悩んでいて載せていないので、そのところをご理解いただきたいと思います。考え方としては、そういう考え方です。

それから、施設を直す時期については、そういうご意見はあるなというふうに正直思っています。このところについては、私たちとしてなかなか厳しいのは、今、これが案なんです。皆様方にとっては市役所の都合で出している案だというのは重々承知しているんですけど、この入所の指数をいじるということになると、ほかの園に通っていらっしゃる方も含めて全員に影響を与えることになるので、この案が決定する前に、簡単に言うと、市議会のほうで最後まで決定する前に、案の段階で指数だけ先にいじってしまうというのが、なかなか公平性の観点からしづらいという状況があります。

ただ、照準としている4月の一斉入所まで、その点は、年度途中のところまでいじれないのかというところはあるかと思しますので、そこはちょっと今後考えさせていただいて、どちらの結論になるか分かりませんが、そういうご要望もあるというのが今日はちょっと受け止めさせていただくところで、ご容赦いただきたいと思います。

それから、3点目の小金井保育園のことなんですけれども、ちょっと失礼な言い方だったら違うと言っていたらと思うんですが、転園、具体的に小金井保育園に行こうと思ったら、後になってそこは仮園舎に移るということになって、また子どもにとっては保護者さんとしては心配だから、そういう年度の予定がもうあるんだったら、選択肢から除くかもしれないからはっきりしてほしいという、多分そういう意図なのかなど思っています。そのお気持ちはとても分かります。

一方で、市のほうでは、集会施設とくっついてしまっている施設であるということ、

建て替えるための場所の確保などの関係があること、それから、様々ほかの施設やいろんな施設も老朽化を抱えて同じ状況があるということを考えると、ちょっとなかなかおっしゃっているタイミングで、かちっとしたものを出す、整理するというのは、お金の部分もありまして、なかなかちょっと難しいというのをご理解いただきたいと思います。

ただ、選択するときにはっきりしてないということが、皆様にとって不安というか、不便というか、そういうところがあるというご意見だというのは理解しましたので、できるかどうかはお約束はできませんけれども、そういうご意見があったという趣旨も含めて、今日は受け止めさせていただければと思います。

○三浦保育課長 どうぞ。

○参加者 すみません、ご回答ありがとうございました。

すみません、ちょっとこの後のことはご回答はいいですけども、先ほど一番最初に、人員の配置を、子ども何名に対して何人というのを出してほしいってお願いをしたときに、それに関しては検討しますというところで言っていたんですが、それに併せて、例えば今、さくら保育園であれば、1階と2階にクラスがたくさんあって、じゃあ例えば何名になったら、下のクラスだけ使えますとか、そういう、何か子どもたちの生活が想像しやすいような例を出していただけると、ちょっと、こういう感じで生活するのかな、じゃあ大丈夫かなみたいなところも考えやすいので、できれば今後、子どもたちの生活がどういうふうになるのかというのを想像しやすい案というか例を、できれば今後に入れていただければと思います。

すみません、以上です。

○三浦保育課長 ありがとうございました。ほかいかがでしょうか。そちらの方。

○参加者 どうも、本日は、ご説明会ありがとうございました。今回ちょっとご質問させていただきたいのが、ちょっと私のほう自身も、判断ができないという状況にいるのかなと思っておりまして。小金井市さん自体は、もう既に今、皆さん、これを廃園をする方向で皆さん、日々研究されているかと思うんですけども、我々自身に、自体に、情報があんまり来てないんじゃないかなと思うんですね。どういうプロセスであったか。ある市議さんがおっしゃっているのは、情報公開請求やってあらゆる検討をしてきたというような、情報公開の資料がこれだけなのかというようなご意見があったりしたのをかいま見ましたので、できれば、これまでの皆さんがやってきた、どうしてこの判断に至ったのかというのをつまびらかに出していただけると、何というんですかね、判断の材料にな

るのかなというのがありました。

それと、私、ちょっと3点あるんですけども、0歳児枠が、今、12月時点で、51人4月あったものが、今、0人になったみたいな情報が分かったんですけども。それで今まで、日々、状況が変わる中で、どのように枠が今、ゼロになったということを受け止めているのかというのを教えていただければというふうに思っております。

あと、実際、今回、段階的に廃園をここに持っていく際に、我が子が、何というんですか、5歳とかになったときに、下の年齢が、下の子どもが学級が続く中で、この広い園の中で、実際にその学級の子しかいないというのをイメージしたときに、ちょっと私は今の説明だけでストレスが本当にないか、いろいろちょっと想像ができなくて、これは転園とかを考えなきゃいけないのかなというのとかも踏まえてお話を伺っているんですけども。

そうしたときに、スケジュールですよ、先ほどおっしゃっていた、もう次の、今、1歳児で、2歳になるんですというときに、もうどんどん子どもは大きくなるので、そうするとお友達も一緒ですし、もう転園するんだったら判断しなきゃいけないという、大人は判断していかなくちゃいけない状況にいますので、ほとんどのプロセスを公開してほしいのと、あと、逐次更新してほしい。それで、我々がどう判断していったらいいのかというのをしっかりしてほしいというのが、ちょっとご意見になります。

以上です。

○平岡保育政策担当課長 すみません、まず、これまでの検討してきた内容というところであります。

おっしゃっているとおり、市民の方から資料請求ですとか、情報公開の請求をされて、これしかないのかというご指摘を受けたのは事実であります。それについては、都度、開示をしてきたときのまとめという形ではなくって、全体的なまとめとして、申し訳ないんですけど、ホームページのほうに検討結果報告というのを入れさせていただいています。それがこれまでの検討の、庁内でのまとめという形になりますので、それがちょっと先に言ってしまうと、市民の方から不十分だというご指摘を受けているんですが、こちらとして今出せるものは、足りないかもしれないんですけど、全部、経過としては出させていただいております。

それから、4月に0歳児さんが51人空きがあったのが、今は全部埋まっていることをどう受け止めているかというところのご質問があったと思うんですけども、私たちとしては、進級などの関係もあったり、入園の申込みの人数の多さのところから、4月

を中心に定員の確保というのを基本的には考えてきました。ですので、その後、お子さんが生まれたり、入園できる月齢になられたりして、少しずつ空いているところが埋まっていくことについては、悪いことだとは思ってはいないんですけども、4月のときに十分な確保ができるのかというところで考えている部分がありましたので、その後、埋まっていくことを、51人ずつと空いていくということはないだろうなというふうに思っておりました。

待機児童という言い方は変なんですけれども、皆様お申込みを月単位でされていかれますので、待っていらっしゃる方は4月に向けて年々増えていくというのはずっと続いていますので、そういう状況もこちらとしては把握はしているんですが、やはり一気に進級して、4月に大半の方が申し込まれる時点で、51人の空きが出たというところは、その後、埋まっていたとしても、私たちとしては、やはり大きいという認識に変わりはないというところであります。

それから、二つ目のところでお話をいただいたのは、今後のスケジュール感というところが動くようであれば、小まめに情報を出してくださいということでよろしかったでしょうか。私たちのほうでは、今、言っていたとおり、令和5年4月、再来年の4月に0歳児を募集しないというような考え方を持っています。これが市のほうでは、ほかのところでも若干説明しているんですけども、本当にそうなるかどうかははっきりするのは、次の募集が始まるよりも前にしないといけないというふうに思っていますので、来年の夏前ぐらいには、どうなるかはっきりするというふうに市のほうでも考えていまして。

ちょっと他人事になってしまったのは、最終的な手続は市議会の議決をもって決まることになるので、市のほうが決めましたというだけでは終わらないものですので、それが来年の夏前ぐらいまでにはっきりしなければいけないというふうに市としては今考えている状況ですので、それをする、今そういうスケジュールで皆様のご意見等を伺っているという状況となっております。

○西岡市長 今、担当のほうから全体的なご回答をさせていただいたところで、ご覧になっていらっしゃると思うんですが、この保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果報告というものを、こちらをホームページ等でもお示ししておりまして、まずこちらを関係者の皆様方にはご覧いただきたいと。これまでの小金井市の保育行政、いろいろな検討会議で平成9年からずっともう25年間にわたって行われてきている、その変遷であった

り、今回の段階的縮小という道を選択するに際しまして、民間移譲、通常の場合、公私連携の場合、事業団の場合、廃園の場合、園統合の場合、一部委託の場合ということで、約6パターンについて検証させてきていただいた。また、その検証結果などについての資料をお示しをさせていただいております、こちらをぜひご覧いただければと思っております。

ゼロについてと、また、今後のスケジュールについて、担当からもご答弁をさせていただきました。待機児童の解消だけ見れば、1歳児が大きな課題であります。空き定員がずっと空きのままというのは、やはり民間保育園の方々にとっても経営に非常に大きな影響が及びますから、定員設定をどのようにしていくのかというのは非常に重要な観点であります。

スタートを4月1日、51名だったものが、現状、埋まっているということは、また、そういう傾向に毎年なっています。ほぼ毎年、0歳児の空きは埋まっていくんです。しかし、全体的に保育園の数がどんどん増えてきている。そして、0歳児の人口も今ちょっと減少傾向にある。コロナの影響もあったとはいえ、0歳児の募集状況、新規の募集状況などの推移も市は見ております。そういったことから、実は0歳児の募集を最初からもうしない新設の保育園があります。ちなみに、来年の4月、四つの保育園を開設しますが、そのうちの二つは0歳児の募集は行わないようにしていただきました。そういうのは空きが大きく出してしまうということを懸念しているからでもあります。

そういったことのバランスを見ながら対応しているということ、ぜひご理解いただければと思います。

○三浦保育課長 いかがでしょうか。次の質問に移ってよろしいですか。

では次の方、いかがでしょうか。

○参加者 質問というよりは、ご提案になるんですけども、先ほど質問された方のお話の中で、やっぱり段階的に縮小する中で、園の様子が具体的に分かると判断しやすい、また、様子が分かりやすいというお話がありました。段階的縮小の中における園児に対するフォローアップについても、いろんな保護者が大きな不安を抱えています。その不安って、なかなか言葉とか文字に起こせないもので、逆にまた示されたものを見て、自分が何を不安に思っているのか分かる保護者もいると思いますので。

提案内容としては、段階的縮小を始めてから各園で園児の人数がどうなっていくのか、職員の配置がどうなっていくのか。その中で、保育課としてどのようなことを想定して

いて、それに対する取組として具体的に何をするのかというものをお示しいただければ、保護者としても何が不安なのか分かるし、この段階的縮小に対してどういうふうに対応していけばいいのか、家の中でどういうフォローをしていけばいいのかというのが分かりやすくなるんじゃないかと思っておりますので、ぜひご検討をお願いしたいと思っています。

ついでになんですけれども、保護者に対してはこういった形で説明会をいただいているんですが、当事者の児童についてはどういう示し方、示し方というか、自分が通っている園がなくなっていくんだよというのを伝えていくのか。多分、これは保育課さんからというよりは、保育園の先生方からお話いただく内容だと思うんですけど、こういったことを検討されているのか教えていただければと思います。

○平岡保育政策担当課長 一つ目は、ほかの方々から出ていた内容について、より詳しいご提案、ご要望だったかなというふうに思っています。ちょっとどのようなやり方をというところについては、市のほうに少しお任せをいただくことになるかとは思いますが、こちらのほうがお伝えしていて、ぴんどこないというお話を大分いただいているところを、大分はっきりさせていただいたところなのかなというふうに思っていますので、どのような対応の仕方ができるのかというところは、市のほうにちょっと預らせていただいて、いつ、どのような形でというところも含めて、検討させていただきたいと思っています。

お子様のほうに対しての直接のご説明、アプローチというところなんですけれども、それについては今、具体的にこういう形でというふうなお話がちょっとできるところまでいっていないのは、申し訳なく思っております。と申しますのは、園のほうでかなりいろいろと考えてくれていますけれども、ちょっと園の職員を前にして私が言うものなんなのですが、いかにその経験ある保育士だったとしても、こういう内容をどういふところをポイントで子どもさんたちに伝えていくかというところは、なかなか簡単に答えが出るものではないというふうに思っていますので、そこのところについては課のほうも連携をしながら、どのようなお話の仕方がいいかについては、もう少しちょっとお時間をいただけないかなというふうに思っております。

○三浦保育課長 ほかいかがでしょうか、まだお時間もございますので、どうぞ。

まだ時間前で、閉じるというつもりはないんですけども、途中でご退出される方はそれでも結構でございますし、引き続きご発言させていただいても結構でございます。

○西岡市長　赤ちゃん、大丈夫ですか。心配しているんです。途中、どうぞご自由に。退出してもらって大丈夫です。

○三浦保育課長　まだ決まっていないところもありますし、具体的なことをちょっと聞かれてしまうと難しいところもありますけれども、我々のほうの今の考え方、精いっぱいご説明させていただきますので、どうぞ、細かいところでも、皆様から何かありましたら挙手いただければと思います。

○参加者　すみません、私自身は、あまりこの、何というんですかね、廃園計画ですとか、段階的な廃園に向けて、あまりこう、否定的な意見というのはないというのがちょっとありまして、だからちょっと皆さんと気持ちが違う可能性もあるんですけども。ちょっとそういう視点から、ただ、今回、市の対応について不満がなかったというわけではありませんが、いきなり廃園をしますということを急に言ってこられるといった対応は、役所の動き方として、恐らくあまり適切ではなかったのかなと。

そういった不満は持っているものの、庁内で十分にご検討された結果、このような形でご説明会等いただいているということ、僕は分からなくはないので、一応そういう気持ちではございます。

ちょっと今回の廃園というところではなくて、じゃあ、廃園したら、その財源はどう使われるのかという部分を、何というんですかね、廃園に向けて結構不満、不安を持たれている方もいらっしゃるんで、じゃあそのお金がどうやって効果的に使われていくのか、そういうところも少しご説明いただきたいなと思っております。資料でいうと9ページの6のところなんですけども、ここを私、一番最初に気になったのが、児童が減っていくということがある中で、一丁目一番地の案のところは特別支援保育ですとか、アレルギーのある児童、要保護児童と、いわゆる障がいのあるような方々のサービスを拡充していくと。こうやって総体的に保育児童が減っている中で、ここにお金を使っていきますという目的と理由というのがよく分からないなということと、この並んでいる順番も、何を優先してやっていこうとお考えなのか、よく分からないなと思っておりますので、この辺りちょっとご説明いただけますでしょうか。

○西岡市長　ご意見、またご質問いただきましてありがとうございます。

市の説明の仕方といたしまして、お答えの仕方や、また説明会、これは1回方針案を出して、最初はもう1年早い計画だったんですが、ウェブサイトの更新のところなどいろいろ課題がありまして、修正をさせていただくことなど、改めて市長として、これ

までの、この方針案のお示しの仕方や修正をしてまた臨ませていただいていること、また、説明会まであまり時間がなかったこと、資料のお示しも急だったことなど、改めておわびを申し上げたいと思います。誠に申し訳ございませんでした。

しかし、この間、平成9年から、実は、実に長きにわたりまして保育検討協議会だったり、保育計画策定委員会であったり、児福審、児童福祉の関係ですね、小金井市の児童福祉審議会であったり、実にいろいろな会議体をつくって、たくさんの方々に関わっていただけてずっと議論してきたんですね。この間は、各保護者の方々の代表者で構成される公立保育園運営協議会という、運協という代表者の方々と、民間委託の在り方などについてずっと議論をしてきたというのがあるんですね。なので、お一人お一人の保護者の皆様方に十分に小金井市の保育の今の検討状況を常にずっと丁寧にお伝えできたかということ、運協を通じての議論にかなり特化していた部分は時期的にはあったので、そこはおわびを申し上げなければいけないというふうに思っております。

しかし、一貫して申し上げたいことは、私は、市長に就任して今もう6年目から、これから7年目に入るところなんですけど、やっぱり小金井というまちは、これからも持続的に、持続可能なまちとして発展していく、そして、今の社会現象、少子・超高齢化、人口減少、こういう状況の中で、小金井市がこれからも、いいまちとして存続していくためには、子育て・子育て・教育環境の向上、もうここに、これをもう柱として、このまちは運営していくことが必要なんだということを考えて、いろいろなことに取り組んでまいりました。

その中で、財源の話もありましたけれども、一つ申し上げれば、例えばですが、平成26年に私が市長に就任したときというのは、これは児童福祉費というのがあるんですね、まさに保育園とか、子どもたちにかけている市全体の中の児童福祉費という予算があるんですけど、これが市民1人当たり大体5万5,000円ぐらいだったんですけど、全人口でいうと1人当たり5万5,000円ぐらいの予算がかかっていました。しかし、それは多摩26市で5万5,000円という金額、児童福祉費はワーストワンです。一番低い状態でした。

今どうなっているかということ、もちろん予算をかけたからといって子育て環境がよくなるとは限りません。子育て環境というのは、もう、まち全体の総合力だとは思っていますが、しかし、市がどれだけこの予算を投入していくのか、いけているのかというのは、それも実は大事なものの一つではあります。ほかの自治体も、かなりやっぱり子育て

て支援には相当力をみんな入れています、待機児解消も含めて。しかし、結果としては令和2年度の決算では、1人当たりの児童福祉費が10万5,000円ぐらいになりまして、現時点では多摩26市で1位になりました。約2倍になったんですね。約70億円ちょっとだった児童福祉費が、令和2年度に120億円ぐらいにはなりました。

これからも子育て・子育て・教育環境の向上は、小金井市長としては、これを極めて重要視しているんです。子育て・子育て・教育環境の向上をもっと充実させたい。今やりたくてもできていないこと、やっているんだけど、不十分だと。お示ししているこの12ページに、この方針案を実現、実施することで、ぜひ伸ばしたい、やりたい、力を入れたいというふうに掲げている項目が、この大きな6項目ということになります。

私としては、財政効果は10年間で約27億4,000万円というふうに計上していますが、この予算は、この財政効果は、その全てを出産、妊娠、子育て・子育て・教育環境の向上に充当します、充てていく、これが私の市長としての考え方であります。特に保育の質の向上につながるような取組には、もうまさに充当させていきたいというふうに考えております。

この中の優先順位をつけていくというのが、これはなかなか難しいんですけど、全部重要なんです。全て重要でして、この中で何がというふうに、とにかく順番は1、2、3、4、5、6とあるんですけども、市長としては、これは、この中にさらに順位をつけるというのは非常に難しいというのが率直な印象です。

ただ、やらなければいけないことがたくさん目の前にはありまして、こういったものをこれから小金井市のまちが取り組んでいく上では非常に重要、特に教育分野ですね、今日は教育長が来ていますけれども。教育分野を、施設的な課題であったり、35人学級をこれから用意スタートしたり、GIGAスクール構想ということでICTを活用した、今、小学校1年生から中学校3年生まではみんな1人1台、小金井の子どもたちは使っているんですね、Chromebookというんですね。これに関連するICT関連の予算もこれからどんどん右肩上がりになっていきますし、子どもたちに関わるものに、これは福祉の面も、医療の面も含めてですけれども、この財源は充てていきたい、充てていく、これが市長としての考えでございます。

○平岡保育政策担当課長 では、ちょっと補足ということで、まず、お金の使い方は今、市長から答弁させていただいたんですけども、もともと民営化のときというのは、まだ待機児が今よりもっと問題になっていて、新しい園をつくっていかねばいけないというこ

とで、今、市長が言っていた児童福祉費をもっともっと、保育園の中のお金をもっともっと単純に増やしていかなきゃいけないという状況もあったので、そこに充てていきたいというお話を実はしていたのは、四、五年ぐらい前からの話でした。

それがある程度、数のほうが落ち着いてきたのでという話を今させていただいているので、今度は質であるとか、今までできなかったサービスの向上のほうに保育の中では充てていくこととなります。

それが、今、市長も言った12ページの中で、1番から6番について申し上げたとおり、優先順位はないんですけれども、あえて分けるとすると1番から4番というのは、もともと公立保育園に対して、もっとこういうところを充実したほうがいいのではないかというふうに、前々から言われてきた宿題の一部です。今回、全部ではなくて、その一部について、こうすればできるということで、この機に採用させていただくこととなります。

ですので、おっしゃるとおり、園が減るのにそこに充実をしてというお話になると思うんですが、これについては、人の確保がとても必要になるんですけれども、今の時代、なかなか公務員をどんどん増やしていくという状況もできなかったりするので、園の数を減らすことで経験ある職員を集約してやっていきたいというのが、この公立保育園自体のサービスの拡充です。

5番と6番については、小金井市全体の保育に関わってくる拡充のほうで、こちらのほうはどちらかというと以前よりも新しい考え方で、今年3月にできた保育のビジョンの中にも新しく出てきている内容になっていまして、こちらのほうも一緒に充実していくことになるんですが、必要な予算だけではなくて、人の確保の必要性もありますので、ちょっとスタート時期がばらばらになっているという状況です。

ですので、優先順位があってばらばらになっているのではなくて、そういう理由で時期が、試行も含めてちょっとばらばらという状況です。

それから、お金の関係で、先ほど民営化のときは、保育園を増やしていくためにまずお金が必要だったんだというお話しさせていただいたんですけれども、ちょっと市長の前で言うと怒られちゃうかもしれないんですけど、先ほど市長のほうで児童福祉費の説明をしたんですが、実は学校のほうのお金のほうも決算の中で26市中、26市で市民1人当たりの決算が幾らかというのを議会のほうに資料で出しています。ちょっと教育のほうは、残念ながら26市中24位だったり、25位だったり、小学校、中学校によ

って違うんですけれども、そちらのほうにはお金としては、まだまだ振り分けられていないというところがあるので、それで未就学児のお子さんたちだけではなくて、そちらのほうにも振り向けていきたいということもあって、先ほど子育て、保育、教育というようなお話をさせていただいたのかなというふうに思っています。

具体的にこういう事業に幾らやっていくんだということまできれいに決めているわけではないんですが、かなり今、保育のほうにお金的にも力を入れているところがあるので、その先の学校のほうへのお金についても、今回の中のを振り分けていくというのは、考え方としては持っているということだけはちょっとお伝えをさせていただきます。

以上です。

○大熊教育長 付け足しをさせていただきたいんですけど。確かに予算は小金井の小学校、中学校、少ないんですが、学力的に言って、じゃあ学力テストの点数は多摩26市、23区を比べても引けを取っているということは一切ありません。ご安心ください。

それから、ICTの取組に関しても、先進市として全国で紹介されたレベルにありますし、今、子どもたちがICTを使うときには、東京学芸大学と連携を取ってしっかりやっておりますので、お金は少ないんですけれども、ちゃんとやっておりますので、ぜひとも公立小学校、中学校に来ていただきたいと、そういうふうに付け足しさせていただきます。その辺は自信を持って言えますので、幾らでも紹介させていただきたいと思えます。

○三浦保育課長 いかがでしょうか。

一回ここで、ちょっとトイレ休憩という名目で5分休憩いたしましょう。我々は11時まで残っておりますので、何か個別にお話を伺えればそれでも結構です。一応再開45分にしましょうか。45分にお戻りいただければと思いますので、少しここで、一回、じゃあ休憩を。45分にまた再開させていただきます。

休 憩

○三浦保育課長 では、皆さん、再開いたします。

引き続きのご質疑という形になりますけれども、いかがでしょうか。

○参加者 すみません、先ほどは答えていただいてありがとうございました。ごめんなさい、私の質問の趣旨がちょっとうまく伝わらなかったの、ちょっと考え直して質問させていただくんですけど、生産緑地の、ごめんなさい、馬鹿の一つ覚えみたいで。今後その3

00平米以上の生産緑地が、恐らく不動産関係へ売却されて、住宅とかマンションとかって増えていくようにも思えるんですけども、そこに保育園をつくってほしいという、ごめんなさい、私の意見ではなくて、そこがそういうふうになっていくというのは、今回のこの人口推計に入れていらっしゃるんでしょうかというのをちょっとお伺いしたいと思っています。

○西岡市長　　まず、現時点での前提として、これ4園の新設保育園を開設いたしますが、それ以後は予定していません。これからは緩やかに、年少人口は大体令和7年か8年ぐらいをピークに緩やかに減少していくというのが、最新の人口統計です。もちろん、人口だけではなくて、小金井の場合は共働き世帯の方も多く、保育園のニーズも高い。そういった状況を踏まえて、この間ずっと待機児解消のために保育園を本当にたくさん設立していただきましたし、市も認可保育園として設置してまいりました。

しかし、ここでこの待機児解消は、来年の4月1日、当然、今、41名ですね、1歳児がほとんどなんですけれども、かなり解消していくものと。今、断言できませんけれども、解消していくものと見通しております。

なので、今後の保育園の新設ということは、今、念頭にはもうないんですね、正直申し上げて。これ以上の設立は、いわゆる保育園の飽和状態になり、あまりにも空きが出れば、保育園の経営にも関わります。というのが、まず大前提としてございます。

その上で、今の農地の状況ですが、実は生産緑地の関係、国のほうが設定している期間が終わるので、これから再延長して引き続き生産緑地として指定しますかどうかという、この確認の作業をずっとやってきまして、小金井の農家、農地はかなりの農地が存続をさせていただきたいということで確認がされていて、申請がされています。しかし、一方で相続税というものが発生するわけですから、そういう状況の中です。相続税というものの対応をしなければいけないので、その一つの選択肢として、売却されて、それは宅地になったりという現象が起きているというのが現状です。

市長としては、農地は保存して、農地も大変大切な小金井の緑ですから、防災的な効果もありますしね、農地は残したい。残せるために、生産緑地の指定要件を、分割してもいいように随分緩和をしました、指定要件を相当緩和して農地を残せるようにしました。

あともう一つ、売主の方の意向というのが当然あります。地権者の方の意向がまず何よりも重要で、実際に元農地が保育園になったという例は小金井でもありますが、それ

はやはり、地権者の方のご意向もあったものというふうに思っています。

なので、生産緑地をピンポイントで事前の段階から、ここはもうとにかく保育園にしましょうというふうに、今の段階から決め打ちをしていくというのはなかなか難しいということがあるということ、ぜひご理解をいただきたいというふうに思います。

○大澤子ども家庭部長 人口推移の関係なんですけれども、まず、私どもとしては、子育てに関する子育て支援事業計画というのを昨年度つくらせていただきました。その際は、まだ人口は増え続けていくだろうというような形と、あと駅前とか、やはり宅地化がされていくところが多いだろうということで、全体的に計画を少し多く見込んできた経過があります。

ただ、それがやはりコロナ禍というところ等もあったのかと思ってはいるんですが、実際、0歳児1,100人程度ぐらいを見込んだんですが、実績としては940ぐらいというふうな形。それと1歳児もやはり同じような形で見込んだんですけども、やはり四、五十ぐらい減ってきているというふうな状況があり、0歳児については昨年5月から、もう1,000を割るような状況がございました。

それと別に、市のほうでも人口ビジョンというものはつくられて、今、示されているかというふうに思っています。毎年、私どものほうとしては、人口の推移を確認しているんですけども、若干やはり0歳児ちょっと増えているかと思っていますけども、1歳は当然ゼロが少なかった傾向がありますので、やはり傾向的には少なくなってきているというふうな状況があるかと思っています。

その新たな人口ビジョンに基づいて、今、子育てに関する計画というのは若干見直しというふうな形をしており、今までの実績等も判断していくと、再来年度の建設は要らないというところは、それから判断をさせていただいているというところです。

0歳児の申込みは、ほぼ横ばいの状況かと思っていますし、ただ、やはり今後、1歳、2歳というような形で保育園に預けたいという親御さん、いわゆる共働きというのは、まだまだ増えていくというような形のニーズはあるかというふうに思っており、その辺を踏まえての計画をしているというふうな状況です。

ただ、市全体としましては、年少人口は令和7年とか令和12年から少しずつ減っていくというところはあるかと思っていますけども、やはり転入、入られてくる家庭が、やはり小学校クラスというんでしょうか、そういった形のところの人口というのは横ばいぐらいで、若干増えているところがある。

ですから、全体の計画的には、今までの我々として考えていくと、そんなに大きな変動はなくて、ただ、0歳以下はちょっと減っているというふうな形があるかというところで、そこについては、毎月、人口情報が出るたびに我々としては注視しておりますので、そういった状況でご説明だけさせていただきたいと思います。

○三浦保育課長 大丈夫でしょうか。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 ほか、いかがでしょうか。

じゃあ、私のほうから。先ほどご退席された方からちょっとご意見があったようで、もしも廃園が決まって、跡地利用を検討する段階においては、桜の木を植え替えましたよね。あの桜をぜひ残していただきたいというご意見があったようでございますので、会議録に残す関係から、私のほうからお伝えさせていただきます。

そのほか、いかがでしょうか。よろしければ、少し早いですけれども、いいですか。

では、すみません、本日の説明会につきましては、以上をもちまして終了させていただきます。

会議録につきましては、個人情報に配慮しまして、市のホームページで公開させていただきますことをご了承ください。

それでは、以上をもちまして終了とさせていただきます。本日は、ご出席いただきましてありがとうございました。

閉 会